

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名：株式会社コトワ

研修事業の名称：ケアアカデミー介護職員初任者研修 通信コース

1 職務の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3.00時間	3.00時間	0.00時間		<講義内容> 介護という職業について、介護保険制度下の在宅(居宅)サービス、及び施設サービスの内容を中心とし、その他の福祉サービスについても解説する。 <演習内容> ・介護サービスの種類を一覧表にまとめてみる。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.00時間	3.00時間	0.00時間		<講義内容> 居宅及び施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況、ケアプランから始まる介護サービス業務の流れを解説する。 <演習内容> ・介護サービスの内容を、他のサービスとの違いがわかるように一覧表にまとめてみる。
合計	6.00時間	6.00時間	0.00時間		
2 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	4.50時間	0.75時間	3.75時間	問題1～8	<講義内容> 介護サービスの利用者の人権の尊重や尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーションなどの理論、身体拘束禁止、虐待防止や個人情報保護などについて解説する。 <演習内容> ・受講生が身近に感じる偏見や差別について討議する。 <添削課題の出題ポイント> 人権と尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止、個人の権利を守る制度について
②自立に向けた介護	4.50時間	0.75時間	3.75時間	問題9～13	<講義内容> 利用者の自立・自律支援、残存能力の活用、自己実現の支援など、自立に向けた介護の在り方、介護予防について解説する。 <添削課題の出題ポイント> 自立支援とは、意欲を高める支援、介護予防について
合計	9.00時間	1.50時間	7.50時間		
3 介護の基本(6時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.50時間	1.00時間	1.50時間	問題14～16	<講義内容> 地域包括ケアの方向性、重度化防止やチームケアの重要性、多職種から成るチームケアについて解説する。 <演習内容> ・介護の理念、専門職の7つの条件を全員で読み上げ、体系的な理解を促す。 <添削課題の出題ポイント> 地域包括ケアの方向性、利用者主体の支援姿勢(自己実現の支援)、チームケアについて
②介護職の職業倫理	0.50時間	0.50時間	0.00時間		<講義内容> 介護職の基本となる倫理、社会的責任、プライバシーの保護、利用者の主体性の尊重などについて解説する。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2.50時間	1.00時間	1.50時間	問題17～20	<講義内容> 介護における安全性の確保、事故予防、安全対策、感染の原因や経路の遮断等、リスクマネジメント全般を解説する。 <添削課題の出題ポイント> 介護における安全の確保、事故が起きてしまったときの対応指針、感染症対策、感染症予防について
④介護職の安全	0.50時間	0.50時間	0.00時間		<講義内容> 介護職自身の健康管理、ストレスマネジメント、腰痛予防、その他、健康管理全般の知識、対策法について解説する。 <演習内容> ・講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする。
合計	6.00時間	3.00時間	3.00時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	5.00時間	0.50時間	4.50時間	問題 21～ 27	<p><講義内容> 介護保険法創設の歴史、制度の目的、保険制度の基本的な仕組み、介護給付、要介護認定、及びケアマネジメントなどについて解説する。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 介護保険制度創設の背景及び目的、動向、基本的仕組み、介護給付と種類、保険給付以外の事業、制度を支える財源について</p>
②医療との連携とリハビリテーション	2.00時間	0.50時間	1.50時間	問題 28～ 32	<p><講義内容> 医療と看護、介護の役割、連携を解説する。</p> <p><添削課題の出題ポイント> リハビリテーションの意義と目的、医行為と介護について</p>
③障害者自立支援制度およびその他制度	2.00時間	0.50時間	1.50時間	問題 33～ 38	<p><講義内容> 障害者自立支援法、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援制度などについて解説する。</p> <p><演習内容> ・高齢者や障害者を支える制度にはどのようなものがあるか一覧表にまとめる。時間の制約上、一覧表が完成しない場合は、宿題とする。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 障害者福祉制度の理念、仕組み、生活保護法、成年後見制度、日常生活支援事業について</p>
合計	9.00時間	1.50時間	7.50時間		
5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3.00時間	1.50時間	1.50時間	問題 39～ 43	<p><講義内容> 介護におけるコミュニケーションの意義、傾聴、共感などの具体的な技法、利用者や家族との関わり方、信頼関係形成の方法を解説する。</p> <p><演習内容> 受講者をグループに分け、講師の指導のもと、介護職・利用者・家族のコミュニケーションのロールプレイングを行う。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 非言語コミュニケーションの特徴、介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割、コミュニケーションの技法、利用者・家族とのコミュニケーションの実際、認知症に応じたコミュニケーション技術について</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3.00時間	1.50時間	1.50時間	問題 44～ 47	<p><講義内容> 介護における観察・記録の重要性、チーム内での情報の共有化、個別援助計画書、ヒヤリハット報告など、5W1Hの意義、ケアカンファレンスの重要性を解説する。</p> <p><演習内容> ・教科書の事例を検討し、チームを結ぶ「記録」の重要性を学ぶ。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 介護における記録の意義・目的、介護に関する記録の種類、記録の書き方と留意点、報告・連絡・相談の留意点について</p>
合計	6.00時間	3.00時間	3.00時間		
6 老化の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3.00時間	0.75時間	2.25時間	問題 48～ 51	<p><講義内容> 老化に伴う心身の機能変化、日常生活への影響について、身体機能や精神的機能の変化を中心に解説する。</p> <p><演習内容> ・加齢に伴って起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗いだし作業を行う。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、身体的機能の変化と日常生活への影響、知的能力の老化と特徴について</p>
②高齢者と健康	3.00時間	0.75時間	2.25時間	問題 52～ 55	<p><講義内容> 高齢者のかかりやすい疾病、日常生活面での注意点、循環器障害と対策、うつ病等の精神疾患、誤嚥、肺炎などについて解説する。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について</p>
合計	6.00時間	1.50時間	4.50時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	0.75時間	0.75時間	0.00時間		<講義内容> 認知症ケアの理念であるパーソンセンタードケア、認知症ケアの視点を解説する。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.25時間	0.75時間	1.50時間	問題56～59	<講義内容> 認知症とは何かを、原因とその病態、原因疾患別ケアの方法、健康管理の方法、治療方法を解説する。 <添削課題の出題ポイント> 認知症の定義、認知症に似た症状(もの忘れ、せん妄など)、健康管理(廃用症候群の予防)、認知症の原因疾患とその病態について
③ 認知症に伴うことからの変化と日常生活	2.25時間	0.75時間	1.50時間	問題60～62	<講義内容> 認知症による生活障害、心理・行動の特徴、心理状態、不適切なケアについて、また一方で適切なケアの具体的な方法、コミュニケーションの方法、認知症の進行に合わせたケアの方法を解説する。 <演習内容> ・様々な認知症の症状に対し、どのようなケアが考えられるかを討議する。 <添削課題の出題ポイント> 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴、認知症利用者への対応について
④ 家族への支援	0.75時間	0.75時間	0.00時間		<講義内容> 認知症の利用者の家族との関わり、援助方法、介護負担の軽減方法(レスパイトケア)について解説する。 <演習内容> ・事例を基にどんなレスパイト方法があるか討議する。
合計	6.00時間	3.00時間	3.00時間		
8 障害の理解(3時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 障害の基礎的理解	0.25時間	0.25時間	0.00時間		<講義内容> 障害の概念、ICFの考え方、ノーマライゼーションについて解説する。
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2.50時間	1.00時間	1.50時間	問題63～69	<講義内容> 身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身障害について解説する。 <演習内容> ・障害者(視覚、聴覚、身体)の体験をする。 <添削課題の出題ポイント> 視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、脳性まひ、内部障害、精神障害、発達障害などについて
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0.25時間	0.25時間	0.00時間		<講義内容> 利用者の家族への支援方法、介護負担の軽減について解説する。
合計	3.00時間	1.50時間	1.50時間		

9 ところからだのしくみと生活支援技術(75時間)

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護の基本的な考え方	3.00時間	1.50時間	1.50時間	問題70～72	<p><講義内容> ICFに基づく介護の理論、法的根拠に基づく介護について解説する。</p> <p><演習内容> ・求められる介護者像をグループディスカッションし、その内容を整理して発表する。 ・利用者主体の介護の良い例、悪い例について、受講生の意見を求め、ディスカッションする。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 介護の基本的な考え方、医療サービスと介護サービスの「アプローチ」の違い、高齢者の自立支援について</p>
②介護に関するところのしくみの基礎的理解	3.00時間	1.50時間	1.50時間	問題73～78	<p><講義内容> 介護の実践に必要な人間のところのしくみの基礎的理解、感情や意欲、生きがい、ところからだの密接な関係性を解説する。</p> <p><演習内容> ・高齢者の生きがいとは何か、家庭や地域社会における支援のあり方についてグループディスカッションを行い、発表する。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、ところの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がところに与える影響について</p>
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4.50時間	3.00時間	1.50時間	問題79～86	<p><講義内容> 人体の各部名称、機能に関する基礎知識全般を解説する。</p> <p><演習内容> ・バイタル測定を実践する。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、バイタルサイン、骨・関節・筋に関する基礎知識、中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、ところからだを一体的に捉えるについて</p>
④生活と家事	6.00時間	3.00時間	3.00時間	問題87～91	<p><講義内容> 生活と家事の理解、生活援助の実践方法、利用者の主体性、能動性を引き出す自立支援の方法を解説する。</p> <p><演習内容> ・ある利用者を想定し、家事サービスの内容をグループワークで討議する。 ・限られた少ない食材でレシピを考え、グループごとに発表する。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援について</p>
⑤快適な住環境整備と介護	4.50時間	1.50時間	3.00時間	問題92～96	<p><講義内容> 高齢者、障害者の日常生活に適合する居住環境整備、バリアフリー、住宅改修、福祉用具について解説する。</p> <p><演習内容> ・快適な居住環境を整備するための知識や福祉用具を、画像や資料で紹介する。 ・様々な福祉用具に触れ、実際に使用してみる。その使い勝手について感想を述べる。</p> <p><添削課題の出題ポイント> 快適な住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について</p>
⑥整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6.00時間	6.00時間	0.00時間		<p><講義内容> 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱の方法、身支度、整容方法、洗面の方法について解説し、実技指導を行なう。</p> <p><演習内容> ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容行動、洗面の方法の模範演技、反復練習、習得度確認を行う。 ・口腔ケアについての解説と実践を行う。</p> <p><備品> ベッド、パジャマ、タオル、バスタオル、洗面用具、ガーグルベース、歯ブラシ</p> <p><指導体制> 受講者数により、12名まで講師1人、13名～24名講師1人・補助講師1人、25名～36名講師1人・補助講師2人</p>

⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6.00時間	6.00時間	0.00時間	<p><講義内容> 移動・移乗に関する知識、安全安楽な姿勢保持の方法、ポディメカニクスの実践方法、車いすの操作方法、車いすへの移乗方法、杖歩行の支援や、歩行補助具の使用方法などを解説し、実技指導を行なう。</p> <p><演習内容> ・ベッド上での体位交換、起居動作、ポータブルトイレや車椅子への移乗方法、車椅子の基本操作方法、移動用具、ポディメカニクスの応用、重心・重力の置き方、残存能力の活用の仕方などについて講師が模範演技、反復練習、習得度確認を行う。 ・肢体不自由者の歩行介助、視覚障害者の歩行介助を行う。</p> <p><備品> ベッド、車いす、ポータブルトイレ、杖、パジャマ、タオルケット</p> <p><指導体制> 受講者数により、12名まで講師1人、13名～24名講師1人・補助講師1人、25名～36名講師1人・補助講師2人</p>
⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6.00時間	6.00時間	0.00時間	<p><講義内容> 食事介護の方法、食事と健康、嚥下のメカニズム、誤嚥防止、福祉用具の活用方法、介護食などについて解説し、実技指導を行なう。</p> <p><演習内容> ・紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル等をいくつか用意し、シミュレーション的に食事介護の練習を行う。 ・様々な介護食材、トロミ材を用意し、製作、試食する。 ・食事介助の基本方法を講師が模範演技し、反復練習する。特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。 ・嚥下のメカニズムを学習し、利用者の状況に合わせた食事介助の方法を講師が模範演技する。受講生はそれに倣って繰り返し練習する。実践練習を通して習得度確認を行う。</p> <p><備品> 紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル、トロミ素材、介護食材</p> <p><指導体制> 受講者数により、12名まで講師1人、13名～24名講師1人・補助講師1人、25名～36名講師1人・補助講師2人</p>
⑨入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6.00時間	6.00時間	0.00時間	<p><講義内容> 入浴の介護方法、清潔保持の目的、手浴・足浴・洗髪、陰部洗浄、清拭方法等について解説し、実技指導を行なう。</p> <p><演習内容> ・入浴、清潔保持に必要なさまざまな入浴用具、整容用具を紹介する。 ・家庭用の浴槽を準備し、入浴介助の手順、安全確認、福祉用具の使用法、利用者への接し方の実践練習を行なう ・全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、ケリーパッドの作り方、ベッドの設営方法、室内環境の整え方、清拭時の体の支え方を講師が模範演技し、実践練習を行う。 ・目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ。 ・ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ。 ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</p> <p><備品> 浴槽、入浴補助具、車いす、タオル、バスタオル、洗面器、ケリーパッド</p> <p><指導体制> 受講者数により、12名まで講師1人、13名～24名講師1人・補助講師1人、25名～36名講師1人・補助講師2人</p>
⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6.00時間	6.00時間	0.00時間	<p><講義内容> おむつ交換など排泄介護の方法、ポータブルトイレなど排泄用具の使用法、プライバシーや心理的負担への配慮、尊厳の保持、トイレ介助などについて解説し、実技指導を行なう。</p> <p><演習内容> ・排泄環境整備の方法、排泄用具を紹介する。 ・おむつやパッドの吸収ポリマーの能力、交換方法を学ぶ。 ・ベッドからポータブルトイレへの移乗方法を学ぶ。 ・ポータブルトイレの構造、使用法を学ぶ。 ・ベッド上でのおむつ交換の方法、差し込み便器、尿器の使用法、陰部の清潔保持、洗浄方法を学ぶ。 ・男性と女性の違いによる排せつ介助のコツを学ぶ。 ・ベッドからトイレへの誘導、介助の方法を学ぶ。 ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</p> <p><備品> ベッド、ポータブルトイレ、パジャマ、タオル、紙おむつ、尿器、差し込み便器</p> <p><指導体制> 受講者数により、12名まで講師1人、13名～24名講師1人・補助講師1人、25名～36名講師1人・補助講師2人</p>

⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9.00時間	9.00時間	0.00時間	<p><講義内容> 睡眠の知識、安眠のための環境整備、ベッドメイキング、褥瘡予防について解説し、実技指導を行なう。</p> <p><演習内容> ・快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する。 ・睡眠のメカニズムを学ぶ。 ・ベッドの構造、機能、操作方法を学ぶ。 ・ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ。 ・ベッドメイキング方法を学ぶ。 ・利用者が寝た状態でのシーツ交換、車いすに移動してのシーツ交換など、複数のパターンを想定したシーツ交換を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</p> <p><備品> ベッド、シーツ、パジャマ、枕、車いす</p> <p><指導体制> 受講者数により、12名まで講師1人、13名～24名講師1人・補助講師1人、25名～36名講師1人・補助講師2人</p>
⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3.00時間	3.00時間	0.00時間	<p><講義内容> 終末期に関する知識、死に至る過程、介護従事者の心構え、基本的態度について解説する。</p> <p><演習内容> ・教科書の演習の1)、2)についてグループ討議し、発表する。事例に関し、講師の体験を基に、利用者本人や家族に対してできることを受講生にアドバイスする。</p>
⑬介護過程の基礎的理解	3.00時間	3.00時間	0.00時間	<p><講義内容> 様々な介護事例を通して介護の目的、計画に沿ったサービス提供の重要性、具体的な展開方法、チームアプローチなどについて解説する。</p> <p><演習内容> ・具体的な事例を通して介護計画の立案を行う。</p>
⑭総合生活支援技術演習	9.00時間	9.00時間	0.00時間	<p><講義内容> 利用者の具体的な事例を課題として、学習した介護実技を実践的に学ぶ。事例は2事例を用意し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技を通して介護手順の習得と技術習得レベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う。</p> <p><演習内容> 別紙「総合生活支援技術演習計画書」の通り</p> <p><備品> ベッド、車いす、浴漕、パジャマ、タオル、バスタオル、紙おむつ、イス</p> <p><指導体制> 受講者数により、12名まで講師1人、13名～24名講師1人・補助講師1人、25名～36名講師1人・補助講師2人</p>
合計	75.00時間	64.50時間	10.50時間	
10 振り返り(4時間)				
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3.00時間	3.00時間	0.00時間	<p><講義内容> これまでの研修全体を振り返り、研修を通じて学んだこと、今後継続して学習すべきことを意識する。</p> <p><演習内容> ・チェックシートを用いて、現在の習得度についての自己評価を行うことで、これまでの自分が受けてきた研修の棚卸を行う。 ・チェックシートを元に、これまでの研修内容について、また今後自分が目指していく介護職像についてグループで討議する。</p>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.00時間	1.00時間	0.00時間	<p>・介護人材の資格制度がどのような方向に改正されようとしているのか理解する。 ・これからの介護職員に求められている人材像を把握し、自分が今後身につけていかなくてはならないスキルを理解する。</p>
合計	4.00時間	4.00時間	0.00時間	
全カリキュラム合計時間	130.00時間	89.50時間	40.50時間	